

平成二十四年度の総合水産試験場の取り組みについて

長崎県総合水産試験場 企画開発推進室

はじめに

総合水産試験場は、平成九年の供用開始以来、今年で十六年目を迎えました。皆様には、日頃から試験研究の推進にご支援、ご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。

当試験場においては、平成二十三年度から二十七年度を計画期間とした本県水産業振興の指針となる「長崎県水産業振興基本計画」に基づいて実施される各種施策の実現に必要な試験研究および技術開発を計画的に推進していきます。

また、「開かれた試験場」として、加工機器などの各種設備を広く開放し、水産業界や県民の皆様の要望に即した試験研究や技術指導を行っています。

本年度の主な取り組みについてお知らせいたします。

主な事業の紹介

(事業費 千円)

一 地域型資源管理予測技術開発試験

一、七三七

長崎県周辺海域における地域特産種の資源の適正な利用を目的として、県北地区のカタクチイワシや壱岐・対馬地区のケンサキイカ等の魚種を対象に漁獲実態や生態等の基礎資料を収集し、資源評価や漁況予測の手法を開発します。

二 漁海況情報提供強化事業

二、八五二

漁業操業の効率化を図る上で必要な情報提供を充実するため、従来の漁海況調査に加え、人工衛星による漁場情報などを取り入れ、精度の高い漁海況予報を作成しています。また、隣県等の他機関と連携した情報の広域化や、ホームページ・携帯サイトの充実など情報入手の利便性向上に取り組んでいます。

三 放流種苗の評価基準づくり事業

五、三六八

放流効果をより高めるため、活力等の種苗の質を評価する手法を確立するとともに、種苗の質が放流効果に及ぼす影響を明らかにし、放流種苗の評価基準を作成します。

四 クエ資源管理技術開発事業

一、七一四

クエ資源の持続的利用を図るため、本種の資源生物学や生態学的知見の解明、資源の的確な評価および効果的な放流手法の開発を行い、種苗放流と資源管理を組み合わせた資源管理手法の検討を行います。

五 良質な種苗の生産技術開発研究事業

一五、七〇五

基礎技術の開発から技術移転までをスピードアップし、養殖または放流により適した質の高い種苗(クエ、クロマグロ、カワハギ等)を生産する技術を開発します。

六 養殖魚類の育種技術開発研究事業

一一、〇八二

トラフグ、ホシガレイ等について、既存の養殖魚と質的差別化を図り、価格競争におい

て優位に立てる品種を作出するため、最新の育種技術を取り入れた種苗生産技術を開発します。

七 貝類の新養殖技術開発

二、六一七

マガキのシングルシード(一粒種苗)を用いた養殖技術や、タイラギ稚貝を用いた中間育成および出荷サイズまでの効率的な飼育方法等にかかる技術を開発します。

八 諫早湾貝類の漁場有効利用技術開発

(新規)

三、七二四

諫早湾内の重要貝類であるアサリ・マガキ・タイラギについて、湾内の漁場をさらに有効活用して生産の安定・向上を図る技術を開発します。

九 水産物供給体制づくりのための技術育成事業

(新規)

四、三九七

県内水産加工業者や水産物流通関係者等に対し、開放実験室の活用・現地指導・研修会・広報誌の発行などによる商品開発・改良の支援や、水産物の品質・鮮度向上のための技術開発・指導を行います。

十 水産加工原料確保のための新原料開発

三、〇〇〇

水産加工品原料の確保と県内に水揚げされる低・未利用魚種の有効利用のため、本県の主要な水産加工品であるねり製品や塩干品について、低・未利用魚種の加工特性に合わせた製造技術を開発します。

十一 有害赤潮プランクトン等総合対策事

(新規)

五、八四二

有害赤潮および有毒プランクトンによる養殖魚のへい死や貝類の毒化による食中毒を防ぐため、現場調査、主要原因プランクトンの動態予測および有効な防除方法の検討を行い、漁業被害および人的被害の発生を防止します。

十二 内湾漁場の有効活用技術開発

四、七一六

アサリ漁場の貧酸素化対策技術の開発や餌環境を良くすることでアサリやカキの安定生産をめざすとともに、真珠漁場の環境特性を把握し、経費の節減を図ります。

十三 戦略的養殖業を推進する技術の開発

(新規)

四、七一五

収益性の高い養殖業を実現するために、市場価値が高い新たな魚種や消費者に支持される品質の養殖魚を生産するための技術開発を行います。

十四 魚病対策技術開発事業

(新規)

七、八一

養殖業の収益性を低下させる最大の要因である魚病を克服するために、疾病対策技術の開発と病気に強い家系の探索を行います。

この他、有明海漁業振興技術開発事業(二五、六六五千円)、陸上養殖振興プロジェクト推進事業(五〇、九五〇千円)などについても、水産部内で連携して試験研究に取り組んでいます。また、戦略プロジェクト研究(産

業労働部所管)として、他の県公設試験研究機関と連携した試験研究にも取り組んでおり、今年度からは、海外輸出に向けた活魚輸送技術の開発(五、五二七千円)に着手します。

西海区水産研究所及び長崎大学との連携

当試験場に隣接する「独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所」および「長崎大学環東シナ海環境資源研究センター」と連携して試験研究を促進するため、施設一般公開「ながさき水産科学フェア」や意見交換会、各種会議の共催・後援等を行います。

情報の発信

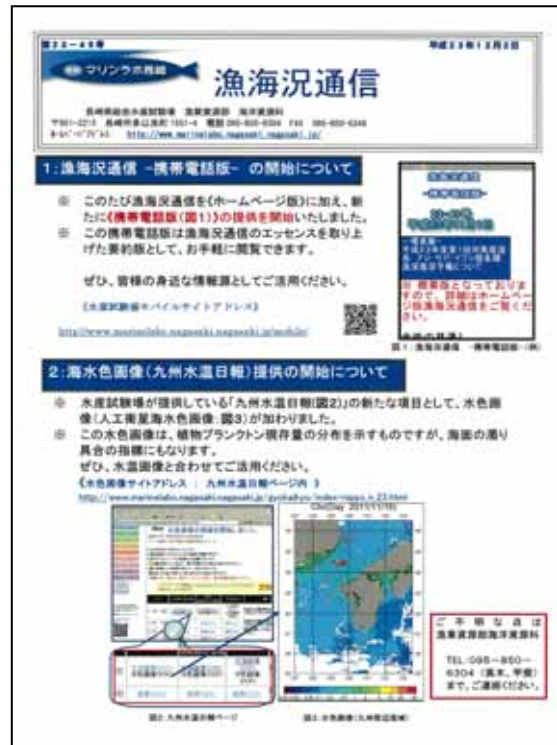
当試験場が取り組む試験研究について、皆様に理解と関心を深めていただくために、各地域で研究内容や成果の紹介と意見交換を行う「移動水産試験場(出前水試)」を開催しています。

また、ホームページや携帯サイト等による情報提供を行っています。

一 漁海況情報の充実

漁業活動への支援のため、様々な情報を、毎週金曜日に発行する「漁海況週報」や随時発行する「漁海況通信」で提供しています。

「漁海況通信」は、情報が漁業者の皆様の目に触れる機会を増やすために、掲示できるサイズで市町、漁協に配布しており、昨年度からは、バックナンバーを含めホームページでも閲覧できるようにしました。



「漁海況通信」(A3版)

二 ホームページ

主な内容は、施設紹介、研究計画、研究報告、情報サービス、漁海況情報、ニュース、試験研究情報です。図集「長崎県の漁具・漁法」や魚の捌き方なども掲載しています。

三 携帯サイト

漁海況通信の概要版、赤潮、水温情報などを掲載しています。携帯電話のバーコードリーダーで左のQRコードを読み込むとサイトへジャンプします。

おわりに

「開かれた試験場」として、水産業に直結した役立つ試験研究を推進してまいりますので、皆様のご意見、ご要望がありましたら、最寄りの水産業普及指導センターか、直接、当試験場(〇九五 八五〇 六二九三)までご連絡いただきますようお願いいたします。

(企画開発推進室 居村憲昭)

長崎県総合水産試験場

電話番号

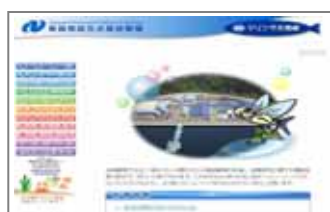
095 - 850 - 6293

ホームページURL

<http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp/>

携帯サイトURL

<http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp/mobile/>



右のQRコードを携帯電話のバーコードリーダー